

日本生活教育連盟主催 春の研究集会in東京

集会テーマ；東京で感じる「沖縄」～世代をつなぎ、他者とつながり、希望をつむぐ

実践報告 東京で感じる沖縄～放送番組『今知りたい沖縄』の制作より～

加藤 雅子（東京都中学校放送教育研究会参与）

外部指導員としてかかわっている部活動の実践報告である。2014年、部で制作した番組を沖縄で紹介する機会があった。沖縄の中学生から、感想と共に、「沖縄というと、きれいな海というイメージか戦争のことと思われているけど琉球王国があって、文化が盛んだったことも知ってほしい」というメッセージがあった。「琉球王国」を調べる過程で、書店で『いまこそ沖縄』を見つけた。五感で学ぶ沖縄学習の方法が書かれていた。これならこの学校の生徒と一緒にできると考え、子どもたちと琉球の歴史から学び始めた。

番組作りは、取材と学習を繰り返した。①「校内でのインタビュー」、②地元の沖縄タウン（商店街）での「うりずん祭」の取材、エイサー体験、インタビュー。③『琉球新報』東京支社への取材。そんな時、沖縄戦ひめゆり部隊を素材に戯曲があることを知り、学校内の発表と地区での演劇発表会に向けて取り組んだ。こうして番組『いま、知りたい沖縄』が完成した。

講演 「実感・対話」重視の平和学習

～本音で生きるか、建て前で生きるか、「沖縄学習」の実際から考える～

行田 稔彦（日生連委員長）

本土から差別され続けてきた沖縄。沖縄には、歴史と現実への怒り、悲しみ、諦め、未来への希望…じくじたる思いが渦巻いている。その一端を、自分事として学ぶ。現代学校の欠陥は、「リアリティーのある学び」と「本音を語り合う対話」からの疎外にある。沖縄を学ぶことは物知りになることではない。事実と向き合い、感じ、問い、考え、他者（異質）との対話を深め、自己自身を形成していく学びである。若者は「思考停止」しているといわれているが本当だろうか。現代は、「批判」というコミュニケーションの「危機」であると言われている。SNSはだれもが発信者になれるが「言いつ放しの文化」である。それを対話と言えるだろうか。

「平和レポートはきれいごと」「先生にお気に入りの意見表明」「考えても何も変わらないから平和教育は時間の無駄」「平和教育はいいが、反戦教育は嫌い」「皇民化教育と平和教育は“押し付ける点”で同じ」等々と、声を発する子ども。ここに、本音を語れない現代教育への子どもからの批判を読み取れないだろうか。子どもたちの声から彼らの戸惑いと本音を読みとり、平和の主体を育てる「平和学習」の課題を明らかにしたい。

2019年 **5月6日（月）** 13:00～16:30（受付12:30～）

終了後、近隣にて懇親会を行います。

会場 成城ホール4階集会室

（小田急線成城学園前駅より徒歩5分）

資料代 一般500円 学生100円

-----告知！-----

日本生活教育連盟の夏季全国集会を愛知にて開催します！

《日程》2019年8月9日（金）～11日（日）

《会場》名古屋大学

※詳しくは公式ウェブサイトやFacebookをご覧ください。

「日本生活教育連盟」⇒[検索](#)

